室蘭工業大学
学術資源アーカイブ
Muroran Institute of Technology Academic Resources Archive

中国の一帯一路構想の系譜とエスニシティのネットワークを介した対外文化戦略の研究．表紙 目次 はじめに

著者	松本 ますみ
雑誌名	中国の一帯一路構想の系譜とエスニシティのネットワークを介した対外文化戦略の研究
発行年	2019-03
URL	http://hdl.handle.net/10258/00009837

はじめに

この報告書は、2016 年度－2018 年度　日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究（B）『中国の一帯一路構想の系譜とエスニシティのネットワークを介した対外文化戦略の研究』16H03460　（研究代表者　室蘭工業大学教授　松本ますみ）（以下、本科研）に基づくものである。

2015 年秋の段階で、研究代表者である筆者は次のような研究構想を本科研の申請書に書き込んだ。

> 2014 年、習近平主席が打ち出した「一帯一路」（海と陸のシルクロード）構想は、中国が更なる大国となることを目指す。この構想では、中国国内・国外在住のエスニシティが大きな役割を担っている。特に、回族、朝鮮族、モンゴル族は中東、アフリカ、東南アジア、中央アジアでの歴史的、生活形態的、宗教的、言語的に同一のバックグラウンドをもつ人々とネットワークをもちつつ、中国の多民族性を利用した国際経済・文化戦略の仲介者となっている。本研究の目的は、中国「少数民族」が自エスニシティと中国人としての二つのアイデンティティーをもちつつ、対外的経済・文化的戦略の一翼を担っていることを、海外調査と文献調査両面で比較検証する。特に、中国国内で民族・宗教教育を受けたものと中国の海外展開の関連性を検討し明らかにする。

この申請当時は、中国の多民族性・多元性に棹差す「一帯一路」構想が存在するのではないか、それが中国のソフトパワーを増し、グローバル世界において大国の道を名実ともに堅実なものにするのではないか、という期待感をもっていた。それは、研究代表者の筆者が、遡ること約 15 年間、中国国内でのさかんな「イスラーム復興」の潮流の中で、回族の男女と多く出合ってきたからである。彼ら/彼女らはイスラームを学ぶべく海外留学を果たしたり、アラビア語を使った通商関係の中で、金銭的成功を収めたり、敬虔さを通して人間としての自信を深めたりしていた。彼ら/彼女らとの出会いは、中国国内各地でだけでなく、中東のドバイや、東南アジアのマレーシアなど、世界各地でであった。さらには、新華僑として、韓国に居住する朝鮮族のダイナミックな経済交流・人的交流の姿も見てきた。その故地延辺朝鮮族自治州における出国熱も見てきた。したがって、彼らの国境を越えた活躍とネットワークは、かならずや、「一帯一路」の「ウィンウィン」経済構想に棹差すはずである、と考えていた。それは、中国の知識人も同様であった（馬強論文参照）。

ところが、ものごとは思わぬ方向に転換した。それが、グローバリズムの反対概念ともいえる強固な「中華民族」ナショナリズムの発動と「党による指導」の徹底である。習近平主席は就任以来「中華民族の大復興」「中国の夢」「社会主義核心価値観」というキーワードを

使い、さかんに中華文明の優秀さと党の指導の英明さと正統性を謳う「中華民族」ナショナリズムを鼓舞している。その内容を精査すれば、習近平のイメージする「中華民族」とは、約 100 年前に孫中山が提唱したような「炉の中で鋳溶かしたように」限りなく単一の価値観をもつ人々で、その価値観は漢民族のそれと同一化しているように見える。その信仰は無神論で、言語は漢語を不自由なく操り、漢民族の民俗・習慣のみを尊び、漢民族中心の歴史観を持っている人々を指しているように見える。本報告書の内容に照らし合わせれば、以下の通りである。

特に、多民族性、特に宗教性を否定する動きが 2016 年度から顕著となっている。現代を生きる宗教的エスニシティ回族に特に 1980 年代から 2000 年代に要望が強かったアラビア語教育は、2016 年以降私的空間でも制限されるようになった。アラビア語はなりを潜め、グローバル化の中で中国が生き残るための英語能力を高めようと、教育現場での英語教育の方法論はさらに洗練されつつある。産業界からも国家からも英語への要求が強いからである。それは、どのエスニシティも変わらない（新保敦子論文参照)。かつてはアラビア語を使って通商活動を行い、篤い信仰で信用関係を築いたものたちは、英語を使っての通商活動にとって変わられつつある。すなわち、担い手が漢族に取って代わられつつあるということである。それは、中東やアフリカに「一帯一路」構想のもと出て行くものは、人口の 92%強を占める漢族でもよい、ということである。さらに、国内では宗教管理条例の厳格化により、宗教界は公認のものであってもさらに中国共産党の方針に厳格に従わなければならなくなった。民間のアラビア語教育は風前の灯となった。

習近平時代の思想状況に顕著なものの別の現象は、肥大化した「大国」意識をもった人民の出現、ビッグデータとネット監視を使った国家による「人民」の管理強化とそれを「安心」と認識する人民、さらには「孔子学院」を中心とする海外への中国文化の積極的発信である（権論文参照)。これは、「中華民族」ナショナリズムと両輪の輪のように存在している。

ここにある種の既視感がある。それは、かつて日米開戦後の緊張下で、戦中の日本知識人が「近代の超克」の名のもとに、近代化と日本精神を結びつけ、ソ連、中国共産党の共産主義の「脅威」と欧米列強に立ち向かうべく対外伸張・戦争を正当化しようとした言説である。対外伸張の方向性の中には、「シルクロード」地帯も含まれていた。1937 年の盧溝橋事件以来の日中全面戦争以来、日本、中国、ソ連をめぐる権力地図の中で空白地帯であった新疆が、日本の「御用」知識人の研究対象となったのは偶然ではない。東洋史学者を総動員したシルクロード研究は、同時に「優秀」で「ユニーク」な日本文化のルーツを知るという、対外的膨張をはからんとする日本人の自意識をめぐる戦いの最先端でもあった。シルクロードの終着点は奈良の正倉院であったならば日本文化は、世界のあらゆる文化のエッセンスを飲み込んで独自性をもち、その日本精神こそが世界を席巻できるという言説は、空前のシルクロード本の隆盛を戦中にもたらした。このシルクロードブームが、日本の戦後高度経済成長時代に一時的に復活したというのも、偶然ではない（MATSUMOTO 論文参照)。また、日本のイスラーム研究もこの文脈の中で進められた（島田論文参照)。

日本が経済大国であった時代は過ぎ去り、現在の大国中国では歴史意識の大規模な再構築が行われている。それは「シルクロード」の要衝は中国の領域内にありつづけ、ユーラシアのすべての情報、事物の情報は中国につながった、という歴史修正主義的言説を補強するものとなっている（楊海英論文参照）。それと同時に、過去において「平和を保障した」主役は、中国であるという、安全保障、物的交流、文化的影響力の観点からの歴史的説明がつけられる。それは、世界を席捲した 18 世紀から 20 世紀の欧米の植民地主義とは一線を画し、「軍事主義」以外での経済発展主義やソフトパワーを使った対外伸張を模索するものである。孫文が 1924 年に神戸で強調した「王道」の模索であろう。しかし、この「中華民族」意識と「大国」意識の膨張の中で、従来のエスニシティの多様性と独自性を重視した政策は、2016 年以来、縮小しつつある。宗教への厳しい締め付け・管理は、この中の核にある（松本論文参照）。

本科研はこの政策変更の影響を受けた。当初計画していた中国のアラビア語学校、モスクの調査研究や当事者への聞き取り、さらには外国に移住した中国ムスリムの訪問調査が中国の国内事情の変化により難しくなった。これは米国の「テロとの戦い」と歩調を合わせる名目の下であるが、厳しい監視のターゲットはイスラームだけでなくキリスト教、仏教も含まれる。イスラーム学校自体が消滅を余儀無くされる危険性もある。また、イスラーム的意匠の建築物も、「中国化」の掛け声のもと、取り壊される、という事態も起こっている。

本科研メンバー以外の外国人研究者も中国国内での宗教関係の調査研究が難しくなり、当局の厳しい監視を受けたり、中には、研究対象の変更を余儀無くされたりするものもいる。本科研でも、複数人が当初中国国外に居住する中国ムスリム（ウイグル族、回族）へのインタビューを計画していたが、情況の急激な変化のためあきらめざるを得なかった。また、CPEC(中国パキスタン経済回廊）の聞き取り調査にパキスタンにも入ったが、なかなか取材許可が下りない、また、共同事業の場に立ち入りが困難という問題もあった（清末報告参照）。

しかしながら、義烏や雲南沙甸のように、ムスリムが中心となって商業活動や通商活動をし、宗教心の強い場所では、訪問調査の結果、まだまだムスリム・ネットワークは健在であることが分かった（奈良論文参照）。また、カザフスタンの東干村の当事者への調査では「カザフスタン国籍」を持つことと中国からの移民の子孫であることの意味を問い直すような宗教活動や経済活動が行われていることもわかった（Bitavarova 論文参照）のは収穫であった。さらに、戦後の日本のイスラーム政策を担った「国際モスレム協会」の史料が台湾で発掘され、日のイスラーム政策の戦前と戦後の連続性、さらには冷戦時の外務省の動きを明らかにすることができた。（島田論文参照）

本報告書は、現在進行中の「一帯一路」構想の論理と実際の一部を解き明かしたものにすぎない。しかし、刻一刻と変わる現在進行形の中国の情勢の中で、「一帯一路」構想の本質の一部に迫ることを目指した。

経費

2018 年度 : 3,510 千円 (直接経費 : 2,700 千円、間接経費 : 810 千円)

2017 年度 : 4,420 千円 (直接経費 : 3,400 千円、間接経費 : 1,020 千円)

2016 年度 : 5,590 千円 (直接経費 : 4,300 千円、間接経費 : 1,290 千円)

科学研究費基盤研究 (B)

「一帯一路構想の系譜とエスニシティのネットワークを介した対外文化戦略の研究」

研究会、国際シンポジウム　開催　リスト

2016　年　第 1 回　研究会

2016 年 6 月 11 日 (土)
場所 : 室蘭工業大学　(北海道室蘭市水元町２７－１)

14:00～14 : 20 松本ますみ (室蘭工業大学)　本科研の目的について　「グローバル化における歴史の再利用と政治経済、さらにはエスニシティのネットワーク化」

14 : 20～14 : 40　自己紹介

研究構想　報告会

15 : 00～15 : 30　アセリ・ビダバローワ (北海道大学・院)　「カザフスタンにおける東干人 : アイデンティティーの重層性と国境を越えたネットワーク構築に着目して」

15 : 30～16:00　権寧俊 (新潟県立大学)　「在外朝鮮人社会の形成と移動 (中央アジアの高麗人と朝鮮族を中心に)」

16:10～16:40　清末愛砂 (室蘭工業大学)　「パキスタンにおける中国文化戦略と技術協力――カラコルムハイウェイと電力開発を中心に」

16 : 40～17 : 10　松本ますみ (室蘭工業大学)　「マレーシア国際イスラーム大学の回族女性たち――中国の世俗主義に抗して」

17 : 10～17 : 40　曲　明 (室蘭工業大学) 「孔子学院の中国語プログラムの概況」

18 : 00～19 : 00　全体討論

19:10～19：50　意見交換会

2016年度　第2回目　研究会

2016年12月3日（土）　13：30～18：00
場所：北海道大学S研究棟　S205号室（〒060-0817 北海道札幌市北区 北17条西8丁目）

13:30～13:40　趣旨説明　松本　ますみ（室蘭工業大学）

第一部：ユーラシアの視点

13：40～14：10　アセリ・ビタバロヴァ（北海道大学・院）「中央アジアで拡大する中国のプレゼンス—タジキスタンを事例にー」

14:10～14：40　大野旭（楊海英）（静岡大学）「ユーラシア文明から見た中国—自著『逆転の大中国史』を語るー」

14:40～15:00　質疑応答

15:00～15:10　休憩

第二部：イスラーム・文化戦略の視点

15：10～15:40　奈良雅史（北海道大学）「回族の民族・宗教意識の変化と観光開発—中国雲南省の事例からー」

15:40～16:10　松本ますみ（室蘭工業大学）「マレーシア在住の中国回族女性—信仰と社会主義祖国のはざまでー」

16：10～16：40　曲　明（室蘭工業大学）「孔子学院の言語文化教育から見た中国のソフトパワー戦略—日本の場合ー」

16:40～17:00　質疑応答

17:00～17：10　休憩

17:10～18:00　総合討論

2017年度　第1回　研究会

2017年6月24日（土）　13：30～17：30
場所：北海道大学S研究棟　S205号室（〒060-0817 北海道札幌市北区 北17条西8丁目）

13:30～13:40　趣旨説明　松本　ますみ（室蘭工業大学）

13：40～14：10　アセリ・ビタバロヴァ（北海道大学・院）「カザフスタンのコルダイ地区におけるドゥンガン人の現状——現地調査報告」

14:10～14：20　　コメンテータ：奈良　雅史　（北海道大学）「中国雲南省の回族との比較において」

14:20～14:40　質疑応答

14:40～15:00　休憩

15：00～15:30　権寧俊　（新潟県立大学）「『一帯一路』背景下での豆満江（図們江）地域の経済開発と人的交流の現状と展望」

15:30～15：40　　コメンテータ：清末　愛砂（室蘭工業大学）　「ＣＰＥＣとの比較において」

15:40～16:10　松本ますみ（室蘭工業大学）「日本の東洋史研究における「漠北と南海」——戦時下日本のシルクロード言説を読み解く」

16：10～16：20　コメンテータ：新保　敦子（早稲田大学）　「日本の対回教工作に焦点をあてて」

16:20～16:40　質疑応答

16:40～16：50　休憩

16:50～17:30　総合討論

18：00～　20：00　今後の研究の打合せ

2017年第2回研究会

２０１７年１２月２３日（土）祝　１３:３０～１７:３０

場所：新潟県立大学１号館　B１２５７教室

１３：３０　研究代表者　松本ますみ（室蘭工業大学）　挨拶

１３:４０　島田大輔（立命館大学）「国際モスレム協会と１９５０年代日本の回教政策――アメリカの関与の可能性をどう考えるか一」

コメンテータ　松本　ますみ（室蘭工業大学）

１４：５０　奈良雅史（北海道大学）「コスモポリタニズムとイスラーム復興――浙江省義烏市の事例から

コメンテータ　清末　愛砂　（室蘭工業大学）

１５:４０～１６:００　休憩

１６：００　清末愛砂（室蘭工業大学）　「パキスタンをめざす中国企業：フィールドワークに基づいて」

コメンテータ：権　寧俊（新潟県立大学）

１６：５０　総合討論　および来年度の計画、シンポジウムについて

科研関連　特別研究会

2018年1月25日（木）16:00～19:00

場所：室蘭工業大学　教育研究　2号棟（Q棟）　Q502号室

講演者：水谷　尚子氏　（中央大学　兼任講師）

演題：新疆ウイグル自治区に出現したウイグル人強制収容施設と、
「一帯一路」政策

2018年度第1回研究会

2018年6月30日（土）　13：30〜18：00
場所：北海道大学国際広報メディア・観光学院　棟　608号室

13:30〜13:40　趣旨説明　松本　ますみ（室蘭工業大学）

第一部:ユーラシアからの視点

13：40〜14：10　アセリ・ビタバロヴァ（北海道大学・院）「中国・カザフスタン関係における「一帯一路」構想の具体化に向けて――新シルクロードをめぐる言説と実践」

14:10〜14：40　大野旭（楊海英）（静岡大学）「諸民族から見た一帯一路政策の展望」

14:40〜15:00　質疑応答

15:00〜15:10　休憩

第二部：教育と思想の諸問題

15：10〜15:40　新保敦子（早稲田大学）「中国における一帯一路政策と小学校英語教育」

15:40〜16:10　松本ますみ（室蘭工業大学）「中国国内対ムスリム政策転換とは何か？ー対外孤立の「20年の大災厄」期（1958-1978）と対外開放の一帯一路構想期をつなぐ通奏低音を歴史から考えるー」

16：10〜16：40　質疑応答

16:40〜16:50　休憩

16:50～17:10　総合討論

討論者:　奈良　雅史（北海道大学）

17:30～18:00　打合せ　11 月 4 日　早稲田大学国際会議場開催予定の国際シンポジウムについて

International Symposium

"Ethnicities in China and their Interaction with Global Society in the era of BELT and ROAD INITIATIVE"

Date: November 4th, 2018

13:30～17:00

Place: Waseda University International Conference Center,

Language: English

13:30 ~

Opening Address-----------MATSUMOTO, Masumi (Professor, Muroran Institute of Technology)

Chair Person -------------- SHIMBO, Atsuko (Professor, Waseda University)

Keynote Speech

13:40 ~ 14:10

Ethnicity as Soft Power: the Role of Migrating Hui to the Belt and Road Initiatives

------------ MA Qiang (Professor of Institute for Western Frontier Region of China, Shaanxi Normal University)

14:10 ~ 14: 40

A Change in Ethnicity/Religiosity of Hui People and Tourism Development:

A Case Study of Hui Muslim Society in Yunnan Province, China

------------ NARA, Masashi (Associate Professor of Media and Communication, Hokkaido University)

14:40 ~ 14:55 Tea Break

14:55~ 15:25 Brokers of the 'New Silk Road'?: A Case Study of Kazakhstani Dungans

------------Assel G. BITABAROVA (PhD Candidate, Graduate School of Letters, Hokkaido University)

15:25~ 15:55 Chinese Muslim Women's Networking on the Global Arena in the Era of BELT and ROAD INITIATIVE. The case of Little Mecca's *nüxiao*'s overseas students in Malaysia

-------Francesca ROSATI, (PhD Candidate, Leiden University, University Institute of Area Studies- Paris EHESS CECMC)

15:55 ~ 16:15 Comments

-------UNNO, Noriko (Postdoctoral research fellow, Japan Society for the Promotion of Science (Chuo University))

16:15 ~ 16:35 Answers from Presenters

16:35 ~ 16:55 Discussions

16:55 ~ 17:00 Closing Remarks----------- MATSUMOTO, Masumi

（後援） 早稲田大学イスラーム地域機構、早稲田大学アジア研究機構現代中国研究所